



発行責任者 亀岡市立病院広報委員会

〒621-8585

京都府亀岡市篠町篠野田1-1

TEL 0771-25-7313

FAX 0771-25-7312

http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/

病院理念

- 急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
- 患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
- 地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
- 公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

CONTENTS

ごあいさつ	1
小児科診療内容の紹介	2・3
看護部室の紹介	4
糖尿病教室について	4
睡眠時無呼吸症候群にかかわる検査の紹介	5
当院におけるリスクマネジメント	5
トピックス	6
山内看護師研修派遣に関する記事他	
病院職員紹介	6
地域連携医のご紹介	7
小柴産婦人科医院・植木タカメディカルクリニック	
編集後記	8
アクセスマップ	8



ごあいさつ

先日、東北地方の某大学病院に手術見学に行く機会があり、震災後初めて東北地方を訪れました。半年の月日たちが流石に生々しさはなりを潜めているようでしたが、雑木林の陰には瓦礫やくず鉄化した車の山が、また、津波で荒れた田畑の中に未だ放置された漁船も見えました。改めて被災された方々に、哀悼の意を表したいと思います。近畿地方においても、つい先日、台風12号により奈良、和歌山を中心に甚大な被害を被りました。この数年、毎年どこかの町が、台風やゲリラ豪雨により壊滅的な被害を被っています。亀岡市は、津波の被害はないにしても豪雨による河川の氾濫や崖崩れ、直下型地震など自然災害は、いつ起こるか分かりません。過去に何度も桂川水系の氾濫による水害を受けた町で防災対策は立てられているとはいえ、最近のゲリラ豪雨に対しては、昔の経験に基づく低地中心の防災対策ではきっと対処しきれません。高台であっても追いつかない排水のため、自宅内に下水が逆流・浸水する事も十分有り得ます。土砂崩れによる道路の破壊は、車中心の現代社会では深刻な問題を引き起こします。病院機能も例外ではありません。仮に京都市との交通が途絶えた場合、施設に甚大な被害がなくとも、医師を中心とした職員の多くが通勤不能となり、当院のみならず亀岡・南丹地区の病院は麻痺状態となるでしょう。今回東北や南紀で起きた自然災害時での医療システムの混乱を聞くに当たり、災害時の機能低下を可能な限り防ぐための仕組み作り、とりわけ亀岡に住み日頃から地域医療の重責を担っておられる開業医の先生方やコメディカルの方々との連携を中心に、緊急時の医療システムを構築する必要が急務だと感じる今日この頃です。

亀岡市立病院 副院長 天池 寿



小児科診療内容の紹介

当院の小児科外来は1階外来の一番奥にあるので、小児科に用のある人かりハビリテーションで来院される人以外には目に触れない存在となっています。そこで、今回は小児科について簡単に紹介させていただきます。

構造について

まず、構造上の特徴としては、外来の一番奥にある関係で、小児科受診を待っている子ども達と他の科に用事がある人達が接触しないようになっています。そして、そのお陰で、外来前のスペースを自由に使えるので、比較的元気な子ども達が退屈せずに順番を待てるように絵本を置いたり、多少は体も動かして寝転んだりできるプレイスペースを設置したりしています。また、当院の外来は全体が大きな吹き抜け構造となっているため、大きく空気が動き、診察を待っている間に他の病気をうつされてしまう危険性がかなり低くなっていることも一つの特徴だと思います。もちろん、「水ぼうそう(水痘)」や「おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)」、「はしか(麻疹)」などの感染力が強い感染症の疑いがある子ども達はみんなと

一緒にいることなく、裏のドアから外来へ入ってもらって、奥の特別な換気ができる第2診察室で待ってもらっています。ところが、そうと気付かずに普通に診察を待っている子がたまにいたりしますが、幸い、開院以来明らかに当院の外来で感染したと思われるエピソードは一度もありません。



外来プレイスペース

診療について

①外来

外来診療は平日(月曜から金曜)に毎日行っています。午前中は受付順の診察で、風邪や腸炎などの一般的な子どもの急性疾患中心の診察を行っています。小児科医が1人しかいないので、感染症の子を完全に別にしての診察はできませんが、入り口を変えたり、診察室を変えたりすることで工夫をして、院内で感染症を拡げない様に診察をしています。午後は慢性的で他の子にうつすようなことがない病気中心で、予約制の特別な外来となっています。残念ながら小児科医が1人であるためにどんな病気も診ると言う訳にはいきません。ただ、当院の最大の特徴は小児科の中でも循環器

を専門とする医師が毎日いる(常勤)ということです。なので、月曜日の午後は赤ちゃんから小学校へ入るまでぐらいの心臓に病気がある子達中心の外来を行い、水曜日と金曜日に関しては小学生から高校生までの心臓に病気のある子達の診察が多いです。特に5月から9月ぐらいまでは学校心臓検診で精密検査が必要と判断された子達の外来を行っています。当院でできる心臓の検査は胸部単純X線写真、心臓超音波(エコー)検査、心電図、自覚症状がある時に自分で記録をしてもらう機械を貸し出す携帯心電図検査、機械を装着したまま24時間普通に家で生活をしてもらって

記録するホルター心電図検査、そして思いっきり走っている状態の心電図を記録するトレッドミル負荷心電図検査です。なお、トレッドミル負荷心電図検査に関しては時間がかかるので、曜日にこだわらず、検査室と患児本人の都合をあわせて火曜日の比較的遅い時間など、別の時間に行うようにしています。それ以上の検査が必要であったり外科的なものを含む特殊な治療が必要な場合は、関係の深い京都府立医科大学附属病院小児内科や、国立循環器病研究センター小児科、兵庫県立こども病院循環器科などへ、必要とする診療内容と御家族の希望に応じて紹介しています。また、循環器疾患関係（心雑音など）で他院からの紹介患者さんの場合は、とりあえず1回目の診察は曜日に関係なく、できるだけ早くに受診してもらえるように段取りをするようにしています。

それ以外では、火曜日の午後は予防接種、木曜日は小さな子のアトピー性皮膚炎とあまり重症でない喘息の子達中心の外来を行っています。また、11月から1月までは、対象者の多いインフルエンザの予防接種があるので、普段の火曜日の枠だけでは数的に接種不可能なので、学校心臓検診精密検査のシーズンが終了することを利用して、水曜日や

金曜日に追加の枠を設けて少しでも早く、少しでも多くの子ども達に接種できるように心掛けています。

急な発熱や嘔吐などに対する診療については、可能な限り対応するつもりですが、小児科医が1人しかいないので、予約外来の途中に急性疾患の診察をすると予約で来ている子達にうつってしまう危険性があり、予約が少ない午後か、予約外来が終了する夕方のわずかな時間にしか診察できないのが現状です。しかし、院内に小児科医がいる時であれば夜間や休日にも診察しています。ただし、夜間や休日は救急対応なので、出せる薬の種類や量も限られており、検査もできるものが限られているので、できる限り普通の診療時間に受診してもらう方が有り難いです。



心エコー

②入院

当院は混合病棟ではありますが、小児科の入院も可能となっています。ただ、24時間小児科医が対応できる大病院ではありませんので、急変しそうな重症の入院は残念ながら難しいです。だから、入院は肺炎、気管支炎、腸炎が中心で、時々あまり重症でない喘息の子も含まれています。特殊な病気で言うと川崎病は心臓のまわりの血管に異常が出る可能性のある病気なので、全国的に小児循環器医が診ていることが多く、当院でも入院して

の治療を受け入れています。入院中にいつでも心臓超音波検査で経過をみることもできますし、もちろん、退院してからの長い経過観察通院もうちの病院で可能です。



トレッドミル

以上、亀岡市立病院小児科について簡単に紹介させていただきました。大病院ではないので、「子どものことなら何でもおまかせ」という訳にはいきませんが、必要に応じて南丹病院や京都市内の病院への紹介なども可能ですので、敷き居が低く、まずはどうすべきかを相談するために、気楽に受診できる病院小児科としてもがんばっていきたいと思っています。

(小児科部長 寺町 紳二)

看護部室の紹介

看護部は病院内の部門の中で、一番多い職員を抱えています。看護部室は、入院患者さまや外来患者さまの動向と、看護職員（看護師・看護助手）の勤務状況、人員配置、健康管理などを把握して日々の業務をすすめています。

外来は患者さまの受診状況や検査の予約状況などにより看護スタッフの配置を変え、患者様の受診がスムーズに進められるよう努めております。病棟は、7対1の看護師配置で2交代制の勤務体制をとり、入院患者さまのお世話をしています。

医師、コメディカルスタッフと共に良質な医療提供をめざし、協働してチーム医療を実践していくために、看護職員のレベルに合わせた教育計画を立案し、各種研修を企画し実施しています。現在、看護部長、教育担当師長、外来責任者の主任看護師、そして看護部室の事務を担っている看護助手の4名が看護部室におります。

看護部理念

1. 患者さまに安全で安らぎのある療養環境を提供します
2. 患者さまを尊重した質の高い看護を目指します
3. 他部門と協働し、チーム医療を推進します
4. 専門職としての自己研鑽に努めます

糖尿病教室について

当院の糖尿病教室には、約5年の歴史があります。全国的に増え続ける糖尿病の患者さんに、「病気のことを正しく知っていただき、上手に糖尿病と付き合っていくためのヒントが提供できないだろうか」また、「医療従事者からの一方通行の指導ではなく、患者さんやその御家族の方が、悩みや経験を話し合ったり教えあったりできる場が作れないだろうか」等々の思いから試行錯誤を重ねつつ、糖尿病教室を運営してきました。

写真は、本年8月の糖尿病教室の様子です。少しずつ参加者が増え、栄養指導室に入りきれない時はウェルネスホールで開催しています。

この5年の間に、徐々にスタッフも増え、糖尿病療養指導士の資格取得者も増えました。今では、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・管理栄養士が持ち回りで講義を担当しています。

右にあるのは、今年度の今後の予定です。参加者から「運動の話が聞きたい」との要望を受け、年度途中で運動器疾患センターに協力をお願いしました。その関係で、11月が過密スケジュールとなってしまいましたが、興味ある方々の参加をお待ちしています。

日時など、詳細は院内に掲示しています。参加費は無料で、興味のある方ならどなたでも参加できますが、資料の準備の都合上、事前に内科外来まで申し込みをお願いします。

（糖尿病教室担当 糖尿病療養指導士
栄養科 主任栄養士 森 美香）



糖尿病教室開催予定

- | | | | |
|-----|---|--------------|----------------|
| 10月 | … | 糖尿病と運動の話 その壱 | 担当：運動器疾患センター医師 |
| 11月 | … | 糖尿病の話 | 担当：内科医師 |
| 11月 | … | 糖尿病と検査の話 | 担当：臨床検査技師 |
| 12月 | … | 薬のQ&A | 担当：薬剤師 |
| 1月 | … | 糖尿病の合併症について | 担当：看護師 |
| 2月 | … | 糖尿病と食事の話 | 担当：管理栄養士 |
| 3月 | … | 糖尿病と運動の話 その弐 | 担当：運動器疾患センター医師 |

睡眠時無呼吸症候群にかかわる検査の紹介



当院でも簡易型ポリソムノグラフィー (PSG) 検査が出来るようになりました。これは患者さんの夜間睡眠中の呼吸状態を監視するものです。睡眠時無呼吸症候群とは睡眠中に10秒以上呼吸が停止し、それが一晩の睡眠中に30回以上見られる病態を言います。肥満した中年から壮年の男性に多く、いびきと日中の異常な眠気を認めますが、自分ではいびきに気がついていないこともあります。

睡眠時無呼吸症候群では無呼吸に伴い、血液中の酸素飽和度が低下し低酸素血症を呈しますが、これが他の臓器に影響を与えることがあります。特に大きく影響を受けるのが循環器系で高血圧、冠動脈疾患(狭心症、心筋梗塞)、脳卒中などが、睡眠時無呼吸の人には起こりやすいと言われています。

また無呼吸は脳が覚醒するまで続くため、睡眠中の中途覚醒が一晩に何度も起こって良質な睡眠をとることができなくなります。そうすると日中に激しい眠気に襲われて、交通事故や災害事故の原因となる場合が報告されています。就寝前に飲酒をしたり、睡眠剤を服用されたりすると、かえっていびき・無呼吸は増悪するためやめてください。

厳密にはポリソムノグラフィー検査は夜間就眠中の呼吸状態を、脳波検査を含めて、調べる必要があります。しかし一晩ずっと脳波を監視・記録するのは患者さんにとっても大変で、それができる施設も限られています。通常はまず脳波を省いた簡易型の器械を御自宅に持ち帰っていただいて一晩記録します。体に取りつける方法は技師さんからイラストを用いて丁寧な説明があり簡単です。翌日病院にお持ちいただいて結果を解析します。その結果、無呼吸症候群が強く疑われる場合には、精密検査の必要性や治療方針について相談させていただきます。

検査が必要な方は、当院循環器科を受診して下さい。

(循環器科部長 松尾 龍平)



当院におけるリスクマネジメント

患者さまの『お名前の確認について』

医療安全委員会より

多くの患者さまに当院をご利用いただいておりますが、苗字が同じ患者さまや、同姓同名の患者さま、発音が似ている患者さまなど、時には患者さまを間違えやすい状況が起こります。

患者さま間違いを防ぐためには、お一人お一人を確実に確認させていただくことが重要と考えています。その方法として、「患者さまにフルネームで名乗っていただくこと」を徹底させていただいています。職員がお名前を尋ねましたら、お名前をフルネームで名乗っていただくことにご協力をお願いいたします。



認定看護師養成研修派遣について

- ① 高い臨床実践能力を他者に示すモデルになることができる
- ② 看護の質向上に向けリーダーシップを発揮することができる
- ③ 看護部組織の成長発展に寄与できる

以上の推薦基準を満たし、同僚や看護師長より推薦された人を認定看護師養成研修に派遣しています。今年度は、褥瘡予防と発生してしまった褥瘡の早期治癒に日頃から取り組んでいる山内有香里看護師を、橘大学の認定看護師養成課程に6ヶ月派遣しています。

来春には、皮膚・排泄ケア認定看護師として活動を始める予定です。次年度以降、がん化学療法看護・感染管理・緩和ケアなど毎年、認定看護師を育成し、「看護の質」向上を図り、看護ケアを充実し、市民の皆さまの期待に応えていきたいと考えています。



山内 有香里 看護師

明智光秀・細川ガラシャ像が描かれた灯籠を展示しました

当院では、8月9日から8月29日までの間、亀岡市にゆかりのある明智光秀と細川ガラシャ像が描かれた灯籠の展示を行い、来院された皆様に楽しんでいただきました。この灯籠は、8月7日に篠町一帯で開催された「竹とうろう 光の祭典」にあわせて、篠町まちづくり推進会が作成した竹製灯籠に、東輝中学校と詳徳中学校の美術部の生徒たちが、それぞれの肖像を描いた力作です。今後は、亀岡市役所など市内各所でも展示され、来る10月29日・30日に開催される第26回国民文化祭のイベントにも登場し、花を添える予定です。



病院職員紹介



リハビリテーション科
理学療法士
田中 裕司

しかしながら、米を秋に収穫し、新米を炊いて、それ

私の実家では小規模ながら米作りを行っています。子供の頃から手伝いをしてはいましたが、最近になり特に農業の難しさを思い知らされております。体力はもちろんのこと、手先の器用さ、様々な知識も必要で、なかなか思うようにはいきません。特に天候にはいつも一喜一憂させられています。

が食卓に出てきたときはなんとも言えない感慨深いものがあります。自分たちで作ったものとなれば味も格別で、今までの苦労を忘れてしまうほどです。

身内が集まり、一つのことを最初から完成するまでやり遂げる「米作り」は私にとって非常に意義がある行事です。ほんま大変ですけど…。



当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者さま中心の医療を展開しています。そこで、本院と関係の深い、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

小柴産婦人科医院

院長：小柴 壽彌

住 所：亀岡市篠町浄法寺中村23-1
T E L：24-4111
標榜科目：産婦人科、内科
診療時間：午前9:30～13:00 午後2:00～5:00
但し、予約は終了30分前までに
木・土曜日の午後および日祝日休診

院長より一言

昭和54年6月に頼政塚交差点の近くの現地で開院し、平成16年7月まで6,627例の分娩を取り扱いました。現在は検（健）診事業を中心に婦人科の外来診療、妊婦健診などを行っています。

開院当初、南隣りは田圃で9号線を見渡すことができ、北隣りの団地は住宅がまだパラパラといった状態でしたが、今は9号線を通る車は見えず、団地も住宅が詰まりました。

今、市立病院さんに一番お世話になっていますのは、MRIの撮影と診断です。婦人科腫瘍の診断にMRIは欠かすことができません。私の開院した30年前に比べますと超音波の機器も飛躍的に進歩しましたが、今一息痒いところに手が届きません。その点、MRIは大変有力な武器です。鮮明な撮影画像と放射線科医の読影の報告をいただけるのは有難いことです。

いま一つは外科の乳腺外来です。今でも乳房の病気といえますと婦人科を受診する患者さんが多く、私もそれなりに勉強してきたつもりですが、やはり最終診断は外科の専門医につけていただかなければなりませんので、田中宏樹先生の存在は大変に有難いことです。

私は平成9年11月の京都府周産期医療情報システムの設立に京都府医師会母子保健担当理事として深く関わりを持ちました。その折の経験から亀岡市には分娩取り扱い施設が2つ以上はなければならないことを痛感しておりました。私も金子先生も分娩の取り扱いを止め、市内では田村産婦人科さんしかお産ができる所がなくなり、街でお会いする患者さんから口々に「何とかありませんか」と言われ続けてきておりました。あちこち探しておりましたところ、山口裕之先生という若くて有能な医師に出逢うことができ、9月から馬堀駅前産科を中心とした開業をして下さることになりました。地理的にも近いことであり市立病院とは密な連携を取っていただけたものと思っています。



植木タカ メディカルクリニック

院長：植木 孝宜

住 所：亀岡市篠町浄法寺中村39-1
T E L：29-6888
標榜科目：内科、消化器科、外科、こうもん科
診療時間：午前9:30～12:30 午後4:00～7:00
火曜日、日祝日休診

院長より一言

20余年の勤務医生活を卒業しまして平成19年11月1日に篠町浄法寺中村に医院を開設しました。開院当初より漢方治療を積極的に行っております。

また平成21年3月より訪問診療を開始いたしまして現在まで17名の患者さんを在宅で看取らせていただきました。今後も在宅診療を充実させていく所存です。

亀岡市立病院のスタッフの皆さんには、紹介患者さんの諸検査、入院のお願いなど大変お世話になっており感謝しています。今後ともよろしくお願いいたします。

プロフィール

1959年(昭和34年)宮崎県延岡市生まれ
京都府立医科大学卒業後、同大学第二外科入局

大津市民病院、京都府立医科大学付属病院、弘仁会大島病院、公立南丹病院勤務を経て2007年(平成19年)11月開業



編集後記

先日仙台に学会で訪れる機会がありました。仙台市内は活気がありほとんど震災の爪痕がみられませんでした。海岸沿いはいまだにがれきが積み上げられており、家屋の基礎だけが延々とあるだけの様子は本当に痛ましい感じがしました。それ以上にやりきれないニュースが五山の送り火や日進市の花火大会の風評被害です。放射線は自然界にも存在しており、計測すればわずかな線量が計測されるでしょうが、そのようなわずかな放射線が人体に深刻な影響を与えるはずがありません。われわれ医療者は検査などでそれより桁外れに多い放射線を日常的に浴びています。われわれ医療者は正しい知識の普及にさらに努力する必要がある、またマスコミにもそれを伝える努力が足りないと思います。また行政も間違った批判には敢然と反論する勇気を持ってほしいと思います。

広報委員会 委員長 田中 宏樹(外科主任部長)

編集委員からのお知らせ

本誌『桔梗』の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストを募集させていただきます。テーマの規定はありません。みなさまより多数のご応募を心よりお待ちしております。採用、不採用に関わらず、写真やイラスト、画像データ等のご返却できませんのであらかじめご了承下さい。詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせをお願い申し上げます。

【担当者】亀岡市立病院 病院総務課 岡田(平日、午前10時から午後3時まで)



JR馬堀駅から徒歩約5分/京都縦貫道篠インターから車で約5分/駐車(輪)場有

亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田1-1

TEL 0771-25-7313 FAX 0771-25-7312

<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html>

「がんばろう日本」～亀岡市は東日本の復興を支援します～